

然れ共夫は漸じて地方政党として終始するものた非ずし、斯くする事が我等の運動を有利に展開せしめ、北九州に於ける資本主義発展の状勢が斯くせしむるに他ならぬ。故に全国的階級の大衆的無産政党的結成の腕には直ちに之に参加するは勿論にして凡ての準備と條件とを具備して居るのである。我等は全国的階級の大衆的單一政党的統一戦線形成の日、速に之を切望すると共に之が達成に向つて他の僚友団体と協力して之が達成するに努力する事は従来と何異変りない。民憲党は以上の如き運動方針のもとに北九州に於て勇敢にテイルヨアライと抗争し、戦線の拡大と無産大衆の利益の獲得の爲め絶へまなき日常闘争を續けつゝある。

一九二六年十一月

民憲党調査部



民憲黨現勢

一九二六年十二月現在

▲黨員總數 五千三百七

▲支部總數 五支部

▲行橋支部 ▲大里支部 ▲小倉支部

▲八幡地方部 ▲板井支部

▲支部組織準備會

▲尾倉支部準備會 ▲前田支部準備會

▲大森支部準備會 ▲三矢支部準備會

●其他 黒崎 眞里方面に支部組織準備會

▲機関紙 民憲新聞

▲毎月二回(第一、三月號)

▲発行部数 三千部

▲通関の予定

▲創刊 大正十四年八月一日

▲地方議員 八關市會に田島の議員を有し内一名は參事會員